

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【公開番号】特開2009-112669(P2009-112669A)

【公開日】平成21年5月28日(2009.5.28)

【年通号数】公開・登録公報2009-021

【出願番号】特願2007-291497(P2007-291497)

【国際特許分類】

A 4 7 J 36/00 (2006.01)

【F I】

A 4 7 J 36/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月3日(2010.9.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

炊飯器本体の持ち運び用のハンドルに着脱自在に取付け可能な取付け部と、しゃもじ把手部の抜き差し方向に開放してしゃもじを保持するしゃもじ保持部とを備え、前記取付け部は、前記しゃもじ保持部の開口部の一端に弾性体で構成された壁面を有し、前記壁面より略垂直に設けた第1の爪と前記第1の爪に略並行に設けた第2の爪を具備し、前記ハンドルの端面を前記第1の爪と前記第2の爪で挟み、前記第1の爪の幅を壁面の幅と略同一とするとともに、前記第2の爪幅は前記第1の爪の幅より狭くしたしゃもじ受け具。

【請求項2】

第1の爪および第2の爪は、L字形状でそれぞれハンドルに引っ掛ける構成とした請求項1記載のしゃもじ受け具。

【請求項3】

第1の爪の長さは、第2の爪の長さより長くした請求項1記載のしゃもじ受け具。

【請求項4】

壁面の少なくとも一部を薄肉とした請求項1記載のしゃもじ受け具。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】しゃもじ受け具

【技術分野】

【0001】

本発明は、炊飯器に着脱自在に取付け可能で、しゃもじを保持するしゃもじ受け具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、炊飯器を使用する際、しゃもじはご飯をよそうのに必要な部品であり、ご飯をよそった後の置き方として、しゃもじを直接テーブルなどの上に置くとご飯粒がテーブル上

に付着するなど不衛生のため、炊飯器本体に付随したしゃもじ受け具を用いるようにしている（例えば、特許文献１参照）。

【０００３】

これは、しゃもじにしゃもじ受け具を取付け、しゃもじとしゃもじ受け具を一体として取り扱い、しゃもじ受け具付しゃもじを炊飯器本体に回動自在に取付けられている持ち運び用のハンドルに固定していた。

【特許文献１】特開２００３－３１０４５７号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、このような従来の構成では、しゃもじ受け具をしゃもじに取付け一体としているため、しゃもじ受け具のハンドルへの固定は容易に着脱できる必要があり、そのことによりハンドルに固定しているときの安定性が低いものである。そのため、しゃもじ受け具付しゃもじをハンドルに傾けて取付けた場合などには脱落する場合があった。

【０００５】

また、炊飯器本体をハンドルによって持ち運ぶときに、ハンドルをおよそ水平の収納状態からおよそ垂直の使用状態へ回動させるのであるが、ハンドルを回動させたとき、しゃもじ受け具付しゃもじがハンドルから脱落する場合があった。

【０００６】

本発明は上記従来の課題を解決するもので、デザイン性を確保しつつ、かつ操作性のよいしゃもじ受け具を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本発明は上記目的を達成するために、炊飯器本体の持ち運び用のハンドルに着脱自在に取付け可能な取付け部と、しゃもじ把手部の抜き差し方向に開放してしゃもじを保持するしゃもじ保持部とを備え、取付け部は、しゃもじ保持部の開口部の一端に弾性体で構成された壁面を有し、壁面より略垂直に設けた第１の爪とこの第１の爪に略並行に設けた第２の爪を具備し、ハンドルの端面を第１の爪と第２の爪で挟み、第１の爪の幅を壁面の幅と略同一とするとともに、第２の爪幅は第１の爪の幅より狭くしたものである。

【０００８】

これにより、しゃもじ保持部からしゃもじ把手部を抜き差しするだけでしゃもじを容易に着脱することができ、炊飯器のデザイン性を確保しつつ、しゃもじの着脱操作性のよいしゃもじ受け具とすることができる。また、しゃもじ受け具は第１の爪および第２の爪を炊飯器本体の持ち運び用のハンドルにはさみつけることで着脱をきわめて簡便に行うことができる。さらに、ハンドルに取り付ける際、傾斜した状態で取付けても低い着力で取付けることができる。また、第２の爪は少なくともハンドルの略中央を１点で保持しても、しゃもじ受け具を前後に動かそうとした場合、第１の爪および第２の爪が広がる方向に力が働くため、しゃもじ受け具のがたつきを抑えることができる。

【発明の効果】

【０００９】

本発明のしゃもじ受け具は、炊飯器のデザイン性を確保しつつ、しゃもじの着脱操作性および炊飯器への着脱性を向上することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

第１の発明は、炊飯器本体の持ち運び用のハンドルに着脱自在に取付け可能な取付け部と、しゃもじ把手部の抜き差し方向に開放してしゃもじを保持するしゃもじ保持部とを備え、前記取付け部は、前記しゃもじ保持部の開口部の一端に弾性体で構成された壁面を有し、前記壁面より略垂直に設けた第１の爪と前記第１の爪に略並行に設けた第２の爪を具備し、前記ハンドルの端面を前記第１の爪と第２の爪で挟む構成としたものであり、しゃもじ保持部からしゃもじ把手部を抜き差しするだけでしゃもじを容易に着脱することがで

き、炊飯器のデザイン性を確保しつつ、しゃもじの着脱操作性のよいしゃもじ受け具とすることができる。また、しゃもじ受け具は第１の爪および第２の爪を炊飯器本体の持ち運び用のハンドルにはさみつけることで着脱をきわめて簡便に行うことができる。

【００１１】

さらに、第１の爪の幅を壁面の幅と略同一とするとともに、第２の爪幅は第１の爪の幅より狭くしたものであり、第１の爪とハンドルの接触部分を広くし、ハンドル装着後のしゃもじ受け具のがたつきを抑えるとともに、第２の爪の保持部幅は第１の爪の幅より狭くすることにより、ハンドルに取り付ける際、傾斜した状態で取付けても低い着力で取付けることができる。また、第２の爪は少なくともハンドルの略中央を１点で保持しても、しゃもじ受け具を前後に動かそうとした場合、第１の爪および第２の爪が広がる方向に力が働くため、しゃもじ受け具のがたつきを抑えることができる。

【００１２】

第２の発明は、上記第１の発明において、第１の爪および第２の爪は、Ｌ字形状でそれぞれハンドルに引っ掛ける構成としたものであり、第１の爪および第２の爪によりハンドルに容易に着脱することができ、ハンドルに着脱する際にかかる着脱力を低減することができる。

【００１３】

第３の発明は、上記第１の発明において、第１の爪の長さは、第２の爪の長さより長くしたものであり、ハンドルに着脱する際にかかる着脱力を低減できるとともに、しゃもじを着脱する場合に外れにくくすることができる。

【００１４】

第４の発明は、上記第１の発明において、壁面の少なくとも一部を薄肉としたものであり、ハンドルに着脱する際、壁面が変形し第１の爪と第２の爪の距離が広がり、ハンドルへの着脱力をより低減することができる。

【００１５】

以下、本発明の一実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、この実施の形態によって本発明が限定されるものではない。

【００１６】

（実施の形態）

図１は本発明の一実施の形態におけるしゃもじ受け具とこのしゃもじ受け具に保持するしゃもじの斜視図、図２は同しゃもじ受け具を炊飯器本体に取付けしゃもじを保持した状態の斜視図、図３は同しゃもじ受け具を炊飯器に取付けた状態の斜視図、図４は同しゃもじ受け具に保持したしゃもじの取り出し方向を示す一部切欠した側面図、図５は同しゃもじ受け具をハンドルに取り付けるときの一部切欠した側面図、図６は同しゃもじ受け具を取付けたハンドルを立ち上げた状態を示す斜視図、図７はハンドル立ち上げ時の同しゃもじ受け具としゃもじとの関係を示す一部切欠した側面図をそれぞれ示すものである。

【００１７】

図２および図３に示すように、炊飯器本体１は、蓋２を開閉自在に蓋２を軸支しており、この炊飯器本体１には炊飯器本体１を運搬するときに使用するＵ字形状の持ち運び用のハンドル３を前後方向に回動自在に軸支している。ハンドル３は、収納時にはハンドル把手部４を炊飯器本体１の後方に回し蓋２の開閉に干渉しない位置に収め、使用時にはハンドル把手部４を上方に立ち上げ使用する。

【００１８】

しゃもじ５は、ポリプロピレンなどの樹脂で成形しており、ご飯に直接触れるへら部８と使用者が掴むしゃもじ把手部１５とにより構成し、しゃもじ把手部１５はしゃもじ５が使いやすいようへら部８の方向が定まるよう断面形状がおよそ楕円形状やコ字形状、または長方形をしており、さらに、へら部８の幅方向としゃもじ把手部１５の断面の長手方向を合せているのが一般的である。本実施の形態では、しゃもじ把手部１５の断面形状はおよそ長方形で角に丸みを設け持ちやすい形状としている。このときのしゃもじ５は、へら部８はご飯をよそうため幅が広く、しゃもじ把手部１５を持ちやすくするため細くなって

おり、しゃもじ 5 の重心 20 は、図 7 に示すように、へら部 8 の根元になっている。

【0019】

しゃもじ 5 を保持するしゃもじ受け具 6 は、ポリプロピレンなどの弾性力のある樹脂で成形し、図 1 に示すように、しゃもじ受け具 6 をハンドル 3 に固定するための取付け部 7 と、しゃもじ把手部 15 をその下方より保持する有底筒形状のしゃもじ保持部 9 により構成し、ハンドル 3 に着脱自在に取付けている。ここで、取付け部 7 は、しゃもじ保持部 9 の開口部の一端に壁面 10 を設け、この壁面 10 に略垂直に設けた第 1 の爪 11 と第 1 の爪 11 に略並行に設けた第 2 の爪 12 とを具備し、ハンドル 3 の端面を第 1 の爪 11 と第 2 の爪 12 とで挟む構成としている。

【0020】

また、図 4 に示すように、第 1 の爪 11 および第 2 の爪 12 を L 字形状に形成し、それぞれハンドル 3 に引っ掛ける構成としている。さらに、第 1 の爪 11 の長さ C は第 2 の爪 12 の長さ D より長くしている。

【0021】

さらに、壁面 10 の少なくとも一部を薄肉としている。加えて、第 1 の爪 11 の幅をしゃもじ保持部 9 の幅と略同一とすることで、第 1 爪 11 とハンドル 3 の接触部分を広くし、第 2 の爪の保持部幅は第 1 の爪 11 の幅より狭くしている（図 1 参照）。

【0022】

また、図 7 に示すように、有底筒状のしゃもじ保持部 9 は、筒の形状はしゃもじ 5 の方向が定まるようしゃもじ把手部 8 の断面形状に合わせて四角に丸みを持たせた長方形とし、しゃもじ 5 が不安定にならないようしゃもじ 5 のしゃもじ受け具 6 への取付け時の前後左右の傾きが 15 度以内になるようしゃもじ把手部 8 とのクリアランスを小さくした形状としている。このときのしゃもじ保持部 9 の深さはしゃもじ把手部 8 の長さの $1/3$ 程度としている。また、しゃもじ保持部 9 の上方の開口部 13 はしゃもじ把手部 8 を挿入しやすいよう底部 12 より大きな形状とし、しゃもじ保持部 9 の底部 12 には穴 14 を設けている。

【0023】

上記構成において動作、作用を説明する。炊飯器本体 1 にしゃもじ受け具 6 を取付ける場合には、まず、しゃもじ受け具 6 のしゃもじ保持部 9 を持ち、図 5 に示すように、第 1 の爪 11 をハンドル 3 の上端部にひっかけた後、しゃもじ保持部 9 を炊飯器本体 1 側に押し込むことで、第 2 の爪 12 がハンドル 3 に滑り、壁面 10 が変形し第 1 の爪 11 と第 2 の爪 12 の距離が開き、第 2 の爪 12 がハンドル 3 の下端を乗り越え、しゃもじ受け具 6 は第 1 の爪 11 と第 2 の爪 12 がハンドル 3 を挟み込み固定される。このとき、しゃもじ保持部 9 の手で押し込む部分が力点 19、第 1 の爪 11 とハンドル 3 の接点が支点 17、第 2 の爪 12 とハンドル 3 の接触部が作用点 18 となり、てこの原理で軽い装着力でしゃもじ受け具 6 を軽い力で簡単に取付けることができる。また、しゃもじ受け具 6 を取り外すときは、炊飯器本体 1 から離れる方向に引くことにより、しゃもじ受け具 6 の取付け工程と逆の工程で軽い離脱力で簡単に取り外すことができる。

【0024】

第 1 の爪 11 を L 字形状にすることにより、第 1 の爪 11 とハンドル 3 の接触部である支点 17 の位置を安定化させることができるため、しゃもじ受け具 6 を取り付けるときの操作力を安定化させることができる。また、第 2 の爪 12 を L 字形状にすることにより、しゃもじ受け具 6 をハンドル 3 取付け後は縦面でハンドル 3 を保持できるため、しゃもじ受け具 6 のがたつきを抑えることができる。

【0025】

また、始めに第 1 の爪 11 をハンドル 3 の上端部にひっかけるため、第 1 の爪 11 の長さを長くしても装着力が大きくなることはない。また、しゃもじ 5 を図 4 の A 方向に取り出した場合、しゃもじ受け具 6 に離脱力がかかるが、第 1 の爪が長いと容易に外れることはない。

【0026】

また、しゃもじ 5 を図 4 の B 方向に取り出した場合は、しゃもじ 5 が壁面 10 に当たるため第 2 の爪 12 に直接しゃもじ受け具 6 の離脱力がかからないため、しゃもじ 5 を着脱する場合にしゃもじ受け具 6 が外れにくくなる。

【0027】

しゃもじ受け具 6 を外すときは、しゃもじ受け具 6 のしゃもじ保持部 9 を持ち、しゃもじ受け具 6 を取付けた時の逆方向に引き出すことで、第 2 の爪 12 に直接しゃもじ受け具 6 の離脱力がかかり、また掛代が少ないため、容易にしゃもじ受け具 6 を外すことができる。

【0028】

さらに、壁面 10 の少なくとも一部を薄肉とすることにより、しゃもじ受け具 6 を着脱する際、壁面 10 が容易に変形し、第 1 の爪 11、第 2 の爪 12 の距離が広がりしゃもじ受け具 6 の着脱力をより低減することができる。壁面 10 を薄くしても、しゃもじ 5 を図 4 の A 方向に取り出した場合、壁面 10 はハンドル 3 に押し付けられる方向に力がかかるため壁面 10 が薄くなってもしゃもじ受け具 6 が外れやすくなることはない。また、しゃもじ 5 を図 4 の B 方向に取り出した場合は、しゃもじ 5 が壁面 10 に当たるため、壁面 10 に引っ張り力が直接かかることがないため、この場合も壁面 10 が薄くなってもしゃもじ受け具 6 が外れやすくなることはない。

【0029】

加えて、第 1 の爪 11 の幅をしゃもじ保持部 9 の幅と略同一とすることで、第 1 の爪 11 とハンドル 3 の接触部分を広くすることができ、ハンドル 3 に装着した後のしゃもじ受け具のがたつきを抑えることができるとともに、第 2 の爪 12 の幅は第 1 の爪 11 の幅より狭くすることにより、しゃもじ受け具 6 を取り付ける際、傾斜した状態で取付けても低い着力で取付けることができる。また、第 2 の爪 12 は少なくともハンドル 3 の略中央を 1 点で保持しても、しゃもじ受け具 6 を前後に動かそうとした場合、第 1 の爪 11 および第 2 の爪 12 が広がる方向に力が働くため、しゃもじ受け具 6 のがたつきを抑えることができる。

【0030】

しゃもじ 5 のしゃもじ把手部 8 を上方よりしゃもじ受け具 6 のしゃもじ保持部 9 に方向を合せ差し込むことにより、しゃもじ 5 を保持することができる。このとき、しゃもじ 5 は、しゃもじ 5 の重心 20 がへら部 8 の根元であり、へら部 8 はバランスが悪くなるが、しゃもじ保持部 9 によりしゃもじ 5 の取付け時の傾きを規制していることにより、しゃもじ 5 のバランスを崩すことなく安定した状態で保持することができる。

【0031】

また、しゃもじ 5 をしゃもじ受け具 6 から取り外すときは、しゃもじ把手部 8 の 1/3 がしゃもじ保持部 9 で囲われ 2/3 がしゃもじ保持部 9 より露出しているので、しゃもじ把手部 15 を容易に掴み取り外すことができる。さらに、しゃもじ保持部 9 の底部 12 には穴 14 を設けていることにより、しゃもじ受け具 6 を手入れするとき、穴 14 が水抜き穴の役割を果たし、しゃもじ保持部 9 に洗淨水が残らず衛生的に保つことができる。

【0032】

また、ハンドル 3 にしゃもじ受け具 6 によりしゃもじ 5 を取付けた状態で炊飯器本体 1 の持ち運ぶときは、図 6 に示すように、ハンドル 3 を収納状態から使用状態の上方に立ち上げることにより、しゃもじ保持部 9 が上方への開口状態からおよそ水平方向の開口状態になるが、しゃもじ保持部 9 をしゃもじ把手部 15 の断面形状に合せ、かつしゃもじ把手部 15 とのクリアランスを小さくし、また、しゃもじ保持部 9 の深さをしゃもじ 5 の重心 20 よりしゃもじ把手部 15 側になるようしゃもじ把手部 15 の 1/3 の深さとしていることにより、図 7 に示すように、しゃもじ保持部 9 がおよそ水平の状態になった場合においても、重心 20 がしゃもじ 5 が脱落しようとする力点 27 となり、開口部 13 が支点 29 となり、しゃもじ保持部 9 の内面が作用点 28 となってしゃもじ把手部 8 を支えることになり、しゃもじ 5 はしゃもじ保持部 9 から脱落することはない。

【0033】

また、しゃもじ 5 をポリプロピレンなどの樹脂としたが、しゃもじ 5 は樹脂に限るものではなく、木材や樹脂とアルミニウムやステンレスの金属との複合構成であっても、何ら問題なく同様の効果が得られるものである。

【0034】

また、しゃもじ保持部 9 の深さをしゃもじ把手部 15 の $1/3$ としたが、しゃもじ保持部 9 の深さはしゃもじ把手部 8 の $1/3$ に限るものではなく、しゃもじ 5 の重心 27 よりしゃもじ把手部 8 側でしゃもじ把手部 8 を容易に掴むことのできる深さであれば同様の効果が得られるものである。

【0035】

さらに、しゃもじ受け具 6 のしゃもじ保持部 9 は、有底筒形状としているが、これに限らず、しゃもじ把手部の取付け方向に開放してしゃもじを保持するものであればよい。例えば、上下に環状の保持部を備えた全体として筒形状でないものであってもよい。

【産業上の利用可能性】

【0036】

以上のように、本発明にかかるしゃもじ受け具は、炊飯器のデザイン性を確保しつつ、しゃもじの着脱操作性および炊飯器への着脱性を向上することができるので、炊飯器に着脱自在に取付け可能なしゃもじ受け具として有用である。

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図 1】 (a) 本発明の一実施の形態におけるしゃもじ受け具の斜視図 (b) 同しゃもじ受け具に保持するしゃもじの斜視図

【図 2】 同しゃもじ受け具を炊飯器本体に取付けしゃもじを保持した状態の斜視図

【図 3】 同しゃもじ受け具を炊飯器に取付けた状態の斜視図

【図 4】 同しゃもじ受け具に保持したしゃもじの取り出し方向を示す一部切欠した側面図

【図 5】 同しゃもじ受け具をハンドルに取り付けるときの一部切欠した側面図

【図 6】 同しゃもじ受け具を取付けたハンドルを立ち上げた状態を示す斜視図

【図 7】 ハンドル立ち上げ時の同しゃもじ受け具としゃもじとの関係を示す一部切欠した側面図

【符号の説明】

【0038】

- 1 炊飯器本体
- 3 ハンドル
- 5 しゃもじ
- 7 取付け部
- 9 しゃもじ保持部
- 10 壁面
- 11 第 1 の爪
- 12 第 2 の爪